

# 第 103 回薬剤師国家試験 総評

【難易度】★：低、★★：中、★★★：高

## 必須問題

出題数	90	予想平均	68	過去問再出題	1	難易度	★
必須問題	<p>◆【物理】 予想平均：3/5 題、難易度：★                      エントロピーや共通イオン効果など過去問ベースの問題が多数見られた。また、過去問のレベルを少し難しくした問題（問 5）も出題されたが、全体的に得点しやすい問題が多かった。</p> <p>◆【化学】 予想平均：4/5 題、難易度：★                      命名法や立体化学、酸性度など基礎的な問題が中心だった。例年より難易度は低く、正解し易い問題であった。</p> <p>◆【生物】 予想平均：4/5 題、難易度：★                      図形や構造式の問題が複数題みられたが、内容としては、過去問の知識があれば十分に正答できる問題ばかりであった。</p> <p>◆【衛生】 予想平均：7/10 題、過去問再出題：1 題（問 25：97 回問 24）、難易度：★                      健康分野 5 問、環境分野 5 問の出題。出題基準に相当する基本的な知識を問うものが多い。全体的に過去問を十分にこなしていれば解ける問題が多い。</p> <p>◆【薬理】 予想平均：12/15 題、難易度：★                      既出問題と類似しているものの、問い方を少し捻った問題や、病態の内容を絡めた問題（問 31、38）が見られた。しかし、問うている内容は難易度が低いため、得点しやすい問題が多かった。</p> <p>◆【薬剤】 予想平均：11/15 題、難易度：★★                      過去に出題された問題の改変など難易度が低いものから、公式を覚えた上でその公式のパラメータの意味を理解しなければ解答できない問題（問 47）もあり、難易度は昨年よりも高い印象。また、単に薬物代謝酵素を阻害する薬物名ではなく、その構造から考える問題（問 45）や、製剤総則（問 51）や製剤試験法（問 52、問 54）など、日本薬局方の知識を習得しておく必要のある問題が出題された。</p> <p>◆【病態・薬物治療】 予想平均：11/15 題、難易度：★★                      過去問ベースの知識で素直に解ける問題も多かったが、一部、表現の細かさで判断を迷わせる問題（問 65、問 70）や、「薬物治療に関する情報」分野の新規内容の問題（問 67）などがあり、受験者を悩ませる問題も見られた。難易度の高低が見られた問題構成であった。</p> <p>◆【法規】 予想平均：9/10 題、難易度：★                      難易度は例年通り平易で、基本的な知識を問うものが多かった。過去問の丸暗記ではなく、内容を理解しておけば、正解を導き出せる傾向にあった。例えば、問 75 において、原因医薬品（非加熱血液製剤）と健康被害（エイズ）の関係だけを丸暗記するのではなく、どのような患者を対象に非加熱血液製剤を用いて、どのような薬害が引き起こされたのかを丁寧に学習しておけば、正解へ辿り着ける。</p> <p>◆【実務】 予想平均：7/10 題、難易度：★★                      過去問ベースの出題であるが、昨年同様問 81 のような注射の手技に関する問題など臨床現場を意識した出題や、表現を変えるなどして難易度を高めた傾向が見られた。</p>						

# 第 103 回薬剤師国家試験 総評

## 一般問題（薬学理論問題）

物理	出題数	10	予想 平均	4	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	<p>昨年に比べ難易度が高めであった。過去問類似で比較的得点しやすい問題（問 91：分子間力、問 96：酸・塩基など）も一部あったが、今までにない言い回しが含まれている問題（問 94：生体分子の立体構造、問 95：電磁波の吸収・散乱など）も多数あったため解答が困難だったと考えられる。</p>							
化学	出題数	10	予想 平均	4	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	<p>全体として難易度は高め。解きやすい問題（問 101：配座異性体、問 103：SN1 反応）もあるが、目新しい問い方の問題（問 100：分子軌道、問 104：反応条件の検討、酵素活性部位の構造）が目立ったため、戸惑った受験者も多いのではないと思われる。問題で与えられた情報から自身で考えて答えを導き出す必要があり、応用力が試される問題だったため、苦戦した受験者が多いと考えられる。生薬分野は、中程度の難易度であり、過去問の知識があれば正解できる問題であった。</p>							
生物	出題数	10	予想 平均	5	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>難易度はやや高め。近年、多く出題される図を絡めた問題（問 110、112、113）や、実験データから考察する問題（問 115、119）が出題され、考える力を問う傾向が強い。また、薬の作用点や病気に関連する範囲の問題（問 110、112、116、117、118）といった、医療につながる内容が増加した。</p>							
衛生	出題数	20	予想 平均点	11	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	<p>健康分野 10 題、環境分野 10 題の出題。全体的な難易度は高め。従来とは異なる問い方に加え、一つ一つの事象の正確な理解も必要である。図表、グラフ問題（問 125、126、127、135、137、139）や計算問題（問 121、134）、また化学構造関連問題（問 132、133）が出題され、思考力、応用力を求める問題は前年同様、かつ幅広い知識が必要であった。</p>							
薬理	出題数	15	予想 平均	11	過去問 再出題	0	難易度	★★
	<p>全体的な難易度は多少考えさせる問題は見られたが、概ね例年通りである。新薬（ルビプロストン、アピラテロン、ラムシルマブなど）に関する問題が出題されたものの、比較的難易度の低いひっかけが多く得点につながりやすいことが予想される。一方、統合失調症治療薬については、ドパミンが作用する脳の部位について詳細が問われており正答率が低くなる可能性が高い。</p>							

## 第 103 回薬剤師国家試験 総評

薬剤	出題数	15	予想 平均	8	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	<p>【薬物動態学】</p> <p>例年通り、ADME とそれに付随する相互作用の問題など、広い範囲で満遍なく出題されたが、理論問題に相応しいしっかりと理論立てて考え、正解を導く良問であった。また、薬動学に関しても、過去問を習得し、内容を理解することで解答に導ける問題であった。</p> <p>【物理薬剤学】</p> <p>新規内容の出題により、選択肢を絞りきれない状況が多く受験生を苦しめた。また、問 175（ガス吸着法による比表面積測定）では、単位を合わせるだけでも答えは導けたが、本来は公式を用いて解答を出す必要のある問題が出題され、薬剤学の幅の広さが感じられた。</p> <p>【製剤学】</p> <p>問 177（製剤化の方法と添加剤）、問 179（実用化されている DDS）など、難易度は高くないが、ここでも過去問の重要性や、実務実習での医薬品の知識が必要とされた。また、法規の内容とリンクさせる問 180（GMP）の問題も薬剤の問題としては珍しい内容が出題された。</p>							
病態・薬物治療	出題数	15	予想 平均	8	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	<p>「薬物治療に役立つ情報」からの出題（問 190～195）が多く、かつ非常に難易度が高い問題（問 191、192、193）が複数見られた。症候（問 181）、褥瘡（問 189）といった非常に難易度の高い問題もあった中で、比較的解答しやすい問題（問 182、問 183、問 185）も散見された。正答すべき問題をこぼさないようにすることが大切であった。</p>							
法規・制度・倫理	出題数	10	予想 平均	7	過去問 再出題	0	難易度	★
	<p>102 回と比較して、難易度低めの問題が多かった。問 148 の増分費用効果比（ICER）の計算問題や、問 150 の病気に対する患者の心理に関する新規の出題は見られたが、過去問を理解できていれば、正解を導き出せる傾向にあった。全体的な難易度は、97 回～101 回に近いものであった。</p>							

# 第 103 回薬剤師国家試験 総評

## 一般問題（薬学実践問題）

物理＋【実務】	出題数	10	予想 平均	5	過去問 再出題	0	難易度	★★
	難易度はやや難～難。物理は、基礎知識の確認問題、原理を問う問題、図の読解が求められる問題が出題され、難易度としては中程度の問題が多数出題された。それに対して実務は、他科目の知識が必要な問題や目新しい問題が多数出題され、得点に繋がりにくかったと考えられる。							
化学＋【実務】	出題数	10	予想 平均	5	過去問 再出題	0	難易度	★★
	難易度は中程度～やや高めであった。実務の出題は、容易に解答できる問題が多い。化学の出題は例年通り、医薬品関連の問題が多いが、生体内での代謝や副作用など他科目の知識と繋げて考えるものが増えている。そのため、医薬品の構造を他科目の観点から考えることが求められる。							
生物＋【実務】	出題数	10	予想 平均	6	過去問 再出題	0	難易度	★★
	データから読み取る問題（問 220）が特徴的であり、考える力を問う傾向が強い。また、他科目の知識から解く問題（問 216）があり、医療を見据えた内容もあった。新規の内容もあり、難易度としては比較的高かった。							
衛生＋【実務】	出題数	20	予想 平均	11	過去問 再出題	0	難易度	★★
	健康分野「7 題」、環境分野「3 題」の出題である（実務 10 問は除く）。衛生分野及び実務分野以外に病態分野等の理解も必要とする問題が出題された。近年、医療分野での実地的な内容を踏まえた問題の出題が増えている。また、栄養素の問題が 3 セットと多く出題された。そのため、今後は病態分野等と衛生絡めて理解することが必須である。							
薬理＋【実務】	出題数	20	予想 平均	17	過去問 再出題	0	難易度	★
	例年通り難易度は低い問題が多かった。薬理の範囲では、過去問見出題の薬物（ボノブラザン、スポレキサント、トファシチニブなど）が多く出題されていたものの、内容は非常に基礎的であった。また、薬物の作用点の受容体の種類に関する問も多く見られた。実務の範囲では、相互作用についての問題が多かった。							
薬剤＋【実務】	出題数	20	予想 平均	12	過去問 再出題	0	難易度	★★
	3 年連続のインスリン製剤の出題や、基本的な相互作用の問題（問 270-271、問 272-273）など、全体で見れば、難易度は高くない。 その一つに、問 279（シクロスポリンの自己乳化型マイクロエマルジョン製剤）は第 100 回の問 271（シクロスポリンの TDM）の知識があれば、十分に解答できる問題であった。一方、問 282-283（坐剤の使用順序とその理由）は、初出題の内容でありながら、6 年制における実務実習の成果が発揮される、薬剤師の可能性を感じさせる問題であった。また、同じ試験時間（2 日目②実践）の別問題である薬理（問 258）と薬剤（問 276-277）の問題で、同じ薬物のダビガトランが出題されるという異例のケースもあり、複合問題で問われる内容の偏りを感じさせるところとなった。							

## 第 103 回薬剤師国家試験 総評

病態・薬物治療 ＋【実務】	出題数	20	予想 平均点	10	過去問 再出題	0	難易度	★★★
	難易度は非常に高い。その要因として、新規の内容（問 301：敗血症）、出題頻度の低い疾患（問 297：足白癬）が出題されたこと、英文文献を題材にした情報の問題（問 304-305）があったためと予想される。							
法規・制度・倫理 ＋【実務】	出題数	20	予想 平均	14	過去問 再出題	0	難易度	★★
	難易度は例年とほぼ変わりがない。過去問の内容を理解しておくこと、文章を読解することができれば、正解を導き出せる傾向にあった。また実務分野での出題も基本的な問題が多く、過去問を理解しておくことが大切である。							
実務	出題数	20	予想 平均	12	過去問 再出題	0	難易度	★★
	複数科目を関連させた問題が多く見受けられ、全体的に幅広い知識や読解力が要求された。今後の対策として実務実習での経験をもとに病態・薬物治療知識を深め、総合的な臨床問題解決能力を培っていくことが課題である。また、例年同様、計算問題が 4 題出題されており、計算に苦手意識のある者は、早期に過去問レベルの計算能力を習得する必要がある。							

### 全体分析と今後の展望（対策）

#### 1) 必須問題

出題基準に相当するレベル（80.2%）であった。難解な問題も散見されたが、物化生を始め、比較的シンプルな問題が多く出題された傾向がある。

#### 2) 一般問題

非常に難易度が高い問題も多く、過去問のみの知識では正答するのは困難な問題が多く見られた。

#### 3) その他

難易度が高かったとされている第 99 回、第 100 回の正答率に近い結果。確実に正答すべき問題（正答率 60%以上）の問題は 211 題あり、如何に取りこぼしを少なくするかが合否を左右する。

今後の展望（対策）として、低学年の方は早期に基礎力を固めること。今後受験する方は一つ一つの事項を正確に理解するような学習を目指していただきたい。